

特集：ネットワークコミュニティにおける学習・教育支援

# SNS を用いた学習・教育支援システムの設計・開発

松浦 健二\*，中村 勝一\*\*

## Design and Development of Learning/Education Supporting System Based on Social Networking Service

Kenji MATSUURA\*, Shoichi NAKAMURA\*\*

System environments for supporting social activities on the network have attracted considerable attention of educators and researchers in learning science field. This paper comprehensively reviews the bright cases of system and practice that adopt SNS (Social Networking Services) for education and learning. This paper surveys functions, objectives and features of existing SNS focusing on particular cases specialized for typical situations. In addition, strategic viewpoints in designing educational SNS are suggested together with multilateral discussion on actual cases. Finally, guidelines for smart development and practical use of SNS are implied through the discussion.

キーワード：SNS 援用学習，オンラインコミュニティ，システムデザイン，コミュニケーション特性

### 1. はじめに

“SNS (Social Networking Service)” の教育・学習場面への適用が数多く行われている。例えば、通常の直接的対面式授業におけるコミュニケーションの補間ツールとして、従来から行われているメールや対面による教師と受講生間の相互作用の支援がある<sup>(1)(2)</sup>。あるいは、授業のような一定の枠組みに捉われず、学生の日常的な学習行為やキャンパス活動をネットワーク上で支援する場としての利用も見られる<sup>(3)(4)</sup>。前者はフォーマルラーニングを対象とした導入と見なすことができるが、その有用さがインフォーマルなコミュニケーションにおいて端的に現れる様子も報告されている。一方で、後者は授業のような枠組みに限らず、それを間接的に支援することや、その環境におけるインフォーマルラーニングの発生などを期待している。

ここで、これらの利用動機を鑑みるに、本来 SNS が持つ特徴を十分考慮し設計したというよりも、むしろツールとしての SNS の導入容易性や利用の快適性によるところが大きいと推察される実践例もある。例えば、授業の教師とその受講生に限った情報共有など、特定の利用動機に対して試験的に実践導入する事例がある。試験的導入では、結果として小規模 SNS となることは想像に易い。これら小規模・目的特化型の SNS を開始することも少なくないが、ユーザが明確な学習タスクを持たない SNS では、その上のコミュニケーション活性化が一つの課題となりがちである。

ところで、適用場面の特性やコミュニティサイズなどを事前検討しない場合には、汎用的な SNS サイトに見られる「〇〇疲れ」(利用開始後しばらくして使わなくなる現象) 以前に、登録のみで一度もログインしない、あるいは一度はログインしても、すぐやめてしまうユーザの比率が高くなることもある。フォーマル

\* 徳島大学 情報化推進センター (Center for Administration of Information Technology, The University of Tokushima)

\*\* 福島大学 理工学群共生システム理工学類/数理・情報学系 (Department of Computer Science and Mathematics, Fukushima University)